

PTA

やまがた

第33号

平成21年3月発行

・編集発行・

山形県PTA連合会

会長 遠藤 正明

山形市緑町1-9-30

山形県新築西通り会館内

TEL 023 (631) 0055 FAX 023 (635) 4359

・印刷所・

中央印刷株式会社

山形市銅町1-1-5 TEL 023 (631) 5533



第60回研修大会全体風景



会長挨拶



無着母親委員会長の大会宣言



感謝状贈呈



宇生氏の記念講演

県P連活動スローガン

『はぐくもう

笑顔輝く山形の子どもたちを』

—— 行動しよう 守り育てるPTAを目指して——

笑顔輝く子どもたちのために

山形県PTA連合会会長 遠藤 正 明



日頃より山形県PTA連合会の運営に対し深いご理解と温かいご支援をいただき、衷心より感謝申し上げます。本年度は「はぐくもう 笑顔輝く山形の子どもたちを」を行動しよう 守り育てるPTAを目標として、子どもたちを取り巻く課題の解決に向け、各郡市PTA・各単位PTAの皆様とともに力を注いで参りました。

今、学校や子どもたちを取り巻く環境が大きく変化し、深刻ないじめ、児童虐待、不登校、少年犯罪の低年

齢化や凶悪化などあつてはならない教育の根幹を揺るがす様な事が、現実として起こっています。それは、子どもたちを守るべき大人が、その責任を果たしていない表れだと感じます。対岸の火事ではなく、我がこととして捉え子どもたちに関わる全ての人が、真剣に考える必要があります。また昨年「教育再生」のもと、先を見据えた教育の骨組みづくりと「いじめ等」に対する緊急の対応が検討されています。我々PTAは様々な施策が子どもたちのためになるように考え、課題の解決に向け行動していかなくてはなりません。

そこで、家庭・学校・地域社会の架け橋として、また地域の一員としてのPTAの役割が、ますます重要なものになってきております。教育の基盤は家庭にあります。家庭での育ちがあり学校での学びが成立し、地域の人々とのかわりの中で多くのびていきます。すなわち、家庭で育ち、学校で学び、地域でのび

る“ように、子どもを守る大人が、しっかりと子どもたちを見守り育てていく事が大切です。

さて、本年の活動として初めに研修大会の開催についてご報告致します。十月に、山形県PTA連合会結成六十周年記念第六十回研修大会鶴岡・東田川大会が、「家庭・学校・地域とのかかわりの中で育もう、いのち輝く子どもたちを」を大会主題として、県内各地より千余名のPTA会員の皆様のご参加をいただき開催されました。山形県教育委員会を始め庄内地区一市二町の教育委員会との共催を頂戴し開催できたことは、主催者として誠にうれしく関係各位に対し厚く御礼申し上げます。また、主管の鶴岡・東田川地区の皆様には、一年前からの準備に始まり、当日の運営に至るまでご尽力をいただき誠にありがとうございました。そして大会では、「組織運営」「研修活動」「健全育成」「家庭・地域と学校教育」「健康・安全教育」のテーマで五つの分科会が開催され、それぞれの参加型の分科会では活発な討議がなされ、課題解決に向け情報を共有し、家庭の基盤となる家庭の教育力を高める研修が出来たものと確信しております。全体会での記念講演では、宇生雅明氏を招き「地域おこしは、

人おこし」の演題で、参会者の心に響くご講演をいただきました。

十一月には、県教育委員会と県高等学校PTA連合との合同教育委員会懇談会が開催され、「デジタルメディアにおける弊害と活用のさせ方」というテーマをもとに、子どもの実態を把握しながら、親としてどのような態度や姿勢で対処すべきかを考えました。そこでは、それぞれの家庭で様々な方法を取りながらも、悩み考えている話を伺い、次世代を担う教育は、時代の変化に呼応しながら将来を見据え継続的に進めていなくてはならないと感じたところです。また、本年は山形県PTA連合会が結成され六十年目を迎えた記念の年であり、十年間の総括である記念誌の発行を行うことが出来ました。

今後も山形県PTA連合会は、笑顔輝く子どもたちのために、社会の変化を敏感に感じ取りながら課題の解決に向け考え、行動していきたいと考えております。

最後になりましたが、ご支援ご協力をいただいた、県教育委員会を始め関係各位の皆様に対し心から感謝申し上げます。

PTAの基本を大切に



米沢市立第二中学校校長 齋藤 賢二

今や経済悪化は、あつという間に地球規模で広がり、国際通貨基金（IMF）は、今年の世界全体の経済成長率について戦後最悪となるとの見方を示しました。このような逆境の中、いかにここを乗り越えていくのか重大な局面を迎えていると言えます。

ところで、大河ドラマ「天地人」が順調なスタートを切ったようです。初回の放映では、大人気だった「篤姫」を抜く二四・七％という高視聴率であったといえます。上杉景勝の家臣でありながら、豊臣秀吉・徳川家康らを魅了し、また、最も恐れられた男・直江兼続は、兜に「愛」の文字を掲げ、その生涯を通じて「民・義・故郷」への愛を貫きました。今こそ人の

「愛」ということを考え直し、親子で家族愛や郷土愛などについて話し合ってみることも大切なのではないのでしょうか。

また、最近のPTAでは役員選出に大変苦慮している現状が、課題として挙げられます。誰だって自ら率先して役員に立候補することは稀だと思いが、子どもたちの健やかな成長のため、学校へ協力する・共に創り上げていくということを大事に考えてほしいと思います。学校としても様々な課題や要求に伝えていくためには、何としても保護者や地域との連携は欠かせません。少なくとも委員の選出をくじ引きやジャンケンで決定しなければならぬことだけは、避けたいものです。

PTAは、色んなイベントもあるが、何と言つても学級単位が基本であると言えます。時には親子で、ある時は親たち同士で、様々な取り組みを通して互いに親密な関係となり、支え合い・信頼し合える会となれば、自ずと子どもたちはより良い方向へ進んでくれるものと確信しています。是非、先生も役員の方も学級PTAの工夫や充実を前向きに考えてほしいものです。

県PTA研修大会鶴岡・東田川大会を終えて



鶴岡・東田川実行委員長 須田 貞夫

昨年十月に鶴岡市櫛引主会場にして山形県PTA連合会結成六十周年記念「第六十回山形県PTA研修大会鶴岡東田川大会」を皆様のご協力により盛大にまた、成功裏に開催できましたことをまずもって心より御礼申し上げます。

本研修大会は、大会主題として『家庭・学校・地域とのかかわりの中で育もう。いのち輝く子どもたちを』を掲げ、県内各地からご参加いただいた千名以上の参加者から、熱心に研修を積み重ねていただいた一日となりました。

午前中は、「組織運営」「研修活動」「健全育成」「家庭・地域と学校教育」「健康・安全教育」のテーマに基づいた五分科会に分かれてのパネルディスカッション形式で進められ、各パネリストから興味深い実践発表が出され、参加者からも質問・意見等活発な議論が展開されました。

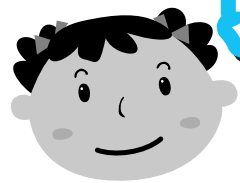
テーマに沿った各地区や学校の特色ある実践活動の情報交流ができたことは、ともに学び続けるPTA活動にとっても貴重な研修の場となつたと考えております。

全体行事後の記念講演におきましては、庄内映画村代表取締役宇生雅明様より、「地域おこしは、人おこし」という演題でご講演をいただきました。

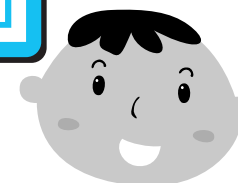
映画づくりを通してのご講演から改めて、身の回りの身近な自然や風土を見直し、その良さを再確認しながら、地域やそこに生きる人々とのかわりを持つことの大切さを学ばせていただきました。

今後は、子どもたちにも、地域の持ついろいろな素晴らしさをこれまで以上に伝えていかなければならないと感じさせられたところでもあります。今回の研修大会は、PTA結成六十周年という記念すべき大会であり鶴岡・東田川全PTAが、よりよい実りのある大会にしようと準備委員会・実行委員会を二年前より立ち上げ準備を進めてまいりました。

大会運営につきましては、いろいろとご迷惑をおかけしたところもあると存じますが、各地区・各単位PTA活動の今後の指針となれば幸いと感じております。そして、来年度開催されます第六十一回最上大会がより充実し実り多い大会になりますようお祈り申し上げます。最後に、ご参会頂きましたPTA会員の皆様、ご来賓の皆様、そして開催にあたり、ご支援ご指導頂きました皆々様に深く感謝と御礼申し上げます。



県民運動『大人が変われば子どもも変わる』



～地域ぐるみ子ども育成活動への取り組み その9～

『黄金の宝物』づくり

米沢市PTA連合会

今年度、南ブロックの小学校七校で取組んだのは「思いやりの心」を親が子どもとの対話のなかで醸成していくためのソフトづくりです。社会全体で子どもたちを育てるとよく言われますが、その中心たる存在は親でなければなりません。親としてPTAとして地域人として子どもたちに対して実践出来る事についてメンバーが知恵を絞り模索しました。そして、その成果として私たちが「黄金の宝物」と呼べるものが出来上がりました。

本来日々の生活の中で培われていくべき心の問題について、また学校には道徳の時間や教材があるにも関わらずメンバーが常に前向きに取り組む事が出来たのは子どものため、という事以外にも理由がありました。多くの親に、もっと地域活動に参加してほしいという願いがあります。そして利己ではなく利他の心を、子どもに示す必要性を訴えたい。支援だけを求め、親が地域に出て行かないという課題へのチャレンジでもありました。

プログラムといってもその構造はシンプルです。「私の宝物」と「みんなの宝物」という二つの話題を軸に子どもたちと対話しながら、人の気持ちに思いを巡らすという事とはどういう事なのかを考えます。そして、それがとても大切だという事を確認する内容になっていきます。見えない心を推し量るという、想像力が必要な知の領域に属するテーマですが、先生方にもお知恵を借り、子どもたちの内面から答えを引き出す良い問いかけが出来ました。

研究会では、この活用方法をステージ上にて劇形式で発表しました。各校の会長さん方を子ども役に配しての実演販売のような実践です。この目的は「伝える」ことです。多くの皆さんに活用していただくには、きちんと趣旨と効能、使用法を知っていただくなくてはなりません。壇上での熱演もあり、確かに伝えたという達成感がありました。この活動に関わっていただいた皆さんに改めて感謝すると共に、このプログラムの活用をさらにお願ひしたいと思ひます。ありがとうございます。

家庭における教育力の向上

北村山PTA連合会

私達も小学生や中学生を経験しています。ですから子どもたちの気持ちもわかる筈です。でも現実はどうでしょう？社会のめざましい発展、家族の形態の多様化、子どもたちを取り巻く環境や心身の発達、私達の子どもの時代には比べ大きく変化しました。「おらだ子どもの頃はこうだけずにゃー」などと言うのは通用しなくなっています。

今年度、北村山PTA研究会集会で「家庭で出来る事は」という点に注目いたしました。あいさつ、食育、親子のコミュニケーション等、各分科会の小グループでの話し合いで出た意見をいくつか紹介いたします。

あいさつなど、子どもにして欲しいことは、親が率先して行動を起こすことで自然に身に付くもので、親が出来ないことを求めても、子どもはやらない。他に靴の脱ぎ方、箸の持ち方。

食育、題材が難しすぎるという意見が出て、簡単に出来る朝ごはんを食べよう、という話から入ったグループもありました。他に米、そばを作って、そこから食べ物大切に作る気持ちを育てる話や、朝ごはんの簡単レシピを紹介して下さった方もいました。

親子のコミュニケーションでは、「ノーTV、ノーゲーム、ノーパソコン」についての意見が活発でした。子どもだけでなく親が積極的にいかかわれば良いのではないかと思います。そこから親も意識を変える。ただTVを観ないという事だけでは無く、TVの有益な番組やニュースなどいろいろなものがあるので、親子で一緒に観てコミュニケーションを深めては等。

今回、話し合われたことをそれぞれの学校で、この分科会のような「意見交換会」を行えば、保護者の方も勉強になるのではないかと思います。子どもたちは私達大人のまねをします。

今変わらなければ……。

食育活動の成果の発表

西村山PTA連合会

今、世界経済の中で金融危機の影響を受けて、日本ではリストラや派遣労働者などに対する派遣切りの急増など国民生活の不安は日増しに大きくなっています。こうした中私たちはまだ豊かさの中で生活をしています。子どもたちは豊かさに伴った社会の価値観や意識の変化、ライフスタイルの多様化などが幼児期からの心の成長にも大きな影響を及ぼしています。

最近の子どもたちは、生命を尊重する心や物を大切にすることや我慢する心、相手を思いやることなど心の豊かさや精神的なたくましさに欠ける傾向が見られます。そのことは核家族化や少子化が進展し、家庭のあり方にも原因があるような気がします。子どもの塾通いあるいはテレビやゲーム、インターネットの利用、また、親の就労形態の変化等により、子どもや母親・父親それぞれの個別の活動時間が長くなり、家族が別々に

食事をするなど、家庭での子どもと保護者の接する時間が少なくなっています。

その中で、親子の結びつきが希薄になり、子どもたちから基本的な生活習慣や社会的な規範意識の欠如が見受けられ、家庭でのしつけや教育力の低下が指摘されています。

家庭は子どもの成長の原点です。今まで以上に家庭の教育力の向上を図るための支援の必要性が高まっています。

本地区PTA連合会では機会ある毎に「子育ての基盤は各家庭にあることを自覚し行動しよう」、「子どもの社会参加を促進しよう」、「地域のすべての大人が積極的に子どもたちにかかわろう」などの呼びかけを行っています。

各学校においても、PTA研修会で家庭教育や躾のあり方についての講演会が行われたり、広報等で意識啓発を図っています。大人たちが子どもたちの成長を温かく見守りつつ、時には厳しく鍛えながら子どもたちを育てていくことが重要と考えます。

地域ぐるみ子どもの成長

遊佐町立稲川小学校PTA

秀峰島海山を仰ぎ西に日本海を望む。遊佐町立稲川小学校は創立一〇五年目を迎え、児童数百一名「すくすくいなほっこ」を合言葉に、学校、地域、PTAが一緒に行う子育てを目指して取り組んでいます。

「昔遊び教室」

毎年、祖父母学級日程に合わせて地域の役員の方々が先生となって、子どもたちに竹トンボ、竹鉄砲やずりごまなどの作り方と遊び方を教えていたでいます。ゲームがあたりまえになっている子どもたちに、小刀等の刃物の使い方や遊び方を指導いたでける貴重な機会となっています。

「いなほっこ見守り隊」

稲川地区で見守り隊が発足して三年になります。子どもたちの登下校の安全を地域のおじいちゃん、おばあちゃんを中心に見守り活動を行っていたとき、日々の見守り活動から気づいた子どもたちの様

子についてPTAと情報交換を行っています。

登下校時に子どもたちが地域の皆さんへ大きな声であいさつを行うことで、見守り隊や地域の皆さんとのとても良い触れ合いになっています。

「いなほっこ森整備事業」

子どもたち、PTA、地域の皆さんが協力して、学習林である「いなほっこ森」の整備を行っています。いなほっこ森は海岸砂防林として江戸時代に私財を投じて整備されたもので、地域の先人の偉業を学ぶとともに、自分たちもその財産を引き継いでいくことを学べる大切な場所です。

こうしてこれからも学校、地域、PTAが協力して子どもたちの笑顔を育てていくと考えています。



伝統を受け継ぎ、伝統を創る 父母と教師の会活動をめざして

山形市立本沢小学校父母と教師の会会長 古内良夫

一、はじめに

本校は山形市の南西部に位置しています。平成十八年度より、上山市の山元地区の子どもたちが教育事務委託という形で仲間入りし、県内でも珍しい市町村を越えての学区となりました。

地域や保護者の学校や父母と教師の会に対する期待は高く、諸活動に対しても協力的です。

今年度、優良PTA文部科学大臣表彰を受賞することができたのも、伝統ある行事を受け継ぎ、さらに新しい伝統を創り上げてきた父母と教師の会の地道な努力と地域からの協力が広く認められたものと、大変名誉に思っております。

二、特色ある取り組みについて

(一) ぶどう給食

今では特産物を給食に入れるという試みが各地で行われています。昭和三十七年から続いているぶどう給食は、その先駆けであり、父母と教師の会の事業となつていることは、大変価値のあるものと思自負しております。

毎年七月中旬に、農協・生産者のみなさんの協力を得て「ぶどう贈呈式」が行われます。夏休み明けにも、児童は地域の方々から寄贈いただいたおいしいぶどうを、数日間に渡つて、食べることができます。昨年度から、農協関係者や生産者を給食に招くことも始めました。ぶどう給食は、食べ物を大切にし、特産物を

身近に感じることができ「地域と共に培う食育の場」となっています。

(二) 学校と地域との提携研究会

二月には「学校と地域との提携研究会」が開催されます。昭和三十三年に始まったこの会は、昨年度、第五十回目の記念事業を行いました。本校出身の二人をお迎えして、「あくはらりようこ記念コンサート」歌つて学ぼう、遊んで学ぼう」と「無着成恭記念講演―日本の教育はどうならなければならないのか」を企画しました。当日は、四百名を超える参会者があり、学校の体育館が、満員となりました。

この会は、「地提研」の略称で親しまれ、保護者だけで

一、はじめに

萩野中学校のある地域は、新庄市北部に位置し、学区は奥羽山脈に接する萩野地区と、真室川町・鮭川村に接する昭和地区、さらに旧奥州街道（現国道一三号）に沿つて細長くのびる泉田地区との三つの集落から成り立っています。昔から稲作を主とした田園地帯で、学校の生徒数は百九十六名、PTA数は百六十五名です。PTA活動に積極的に協力する意識が根付いています。今回このような名誉ある賞をいただいたのは、これまで萩中PTAとしてかわつてくたさつた全ての保護者の皆様と、先生方、そして協力的な地域の皆様のおかげと、心より感謝申し上げます。

また、受賞にあたり、ご指導ご支援いただいた関係機関の皆様にも心より感謝申し上げます。

二、特色ある取り組みについて

① PTA総会における「PTA全員研修会」

私たち萩野中PTAは、「豊かな心・思いやりのある萩中生を育てるために、学校・家庭・地域が一つになつたPTA活動」を目標に掲げ、今年度は、さらにサブテーマとして「子どもたちと共に歩むPTA向上計画」をめざし、親として学ぶこと・参加することを積極的に進めてまいりました。それが、萩野中PTA独自の特色ある取り組みとなつています。

② 親子早朝ボランティア

現在、全国的に携帯電話による事件が多発し、PTA自身も不安を持つている状況があります。子どもの健全育成を考え、さらに携帯電話の危険性を知ることが大切と考え、校

PTA総会の中に、「PTA全員研修会」を持ちました。よりたくさんのPTAが集まる時に実施することで、子どもたちが事件事故に巻き込まれないようにするためです。

講師としては、警察署の補導専門官をお招きして、「親として知っておくべき携帯電話の現状と危険性」という講話をいただきました。参加者は、百四十三名で、八七％の参加率でした。危険性について具体的に詳しく知る大変良い機会となりました。これからもこのようなPTAの学びの場を積極的につくっていく体制を考えています。

親子が共に、学校を美しくするという同じ目的を持ちボランティア活動をすることで、豊かな心や物を大切にすることを育てようと始めました。校

なく、広く地民をも対象とした研修の場となっています。まさに、「歴史と文化の里本沢」を具現化している事業といえます。

(三) 組織改革

本地区も、少子高齢化が進み、児童数の減少は父母と教師の会の活動にも次のような課題が指摘されるようになっていました。

① 兄弟がいると毎年のように役員を務めなければならない。

② 会費収入も減少する。

③ 児童のいない地区が出現し地区選出の「生活環境部」の活動が行いにくくなる。

これらの課題を解決するために「ピンチをチャンスに」の理念のもと、組織改革を行いました。主な骨子は次の通りです。

- ① 「文化」「保体」「生活環境」の三つの専門部を「文化」「事業」の二つに改編し、役員定数を少なくした。
- ② 「生活環境部」の担っていた「登校指導」を全保護者で分担する。

規約改正を伴うため、二年間をかけて検討・周知し、二年度からは、新体制での活動をスムーズに始めることができました。

三、まとめとして

組織改革はおおむね好評です。特に全保護者による「登校指導」は、「子どもたちの登校の様子が分かつてよい。学校まかせではいけない。」という意見が多く、新たな伝統となりそうです。

また、受け継いでいる伝統ある事業も、よりよいものにするために見直しながら進めていく姿勢で臨みたいものと思っております。



舎の窓磨きをみんなで行い、美しい校舎にする活動です。

「みんなの手で萩中を美しくプロジェクト」として、全PTAへ呼びかけ、さらに地域の方々へも発信しています。

この機会は、親子だけの関係でなく、友達のお父さん、お母さんとも触れ合い交流しながら活動し、大人と子どもとの関わりを大切にするため、全体でのあいさつ交流も毎回行っています。今年の七月の活動では、地域の方も含めて総勢二百五十名の参加となりました。今年は、学年行事の中でも親子ボランティアを取り入れていきます。これからも人や社会のために役立つ体験活動を共有しながら進めていきたいと思っています。

③ 各専門部の取り組み

萩野中PTA専門部組織は、生活指導部・研修部・保体部・母親委員会から作られています。生活指導部では、萩野中見守り隊の結成、毎月の挨拶運動、地区懇談会の企画や運営、研修部では、広報誌の発行、保体部では、同じ中学校区の三つの小学校PTAとの

合同親善ソフトバレー大会の企画や運営など行っています。その中でも母親委員会は、母親からの視点で毎年ユニークな取り組みを実践しています。

④ 文化祭におけるバザー・読み聞かせ等

家庭にあるさまざまなものを出していただき、母親委員会と生徒会JRC委員会が共催してバザーを実施しています。そこでの収益金で「母親文庫」を購入して図書室に寄贈し、毎年新しい本が増えていきます。また、文化祭での萩の里交流フェスタの中で本の読み聞かせにも挑戦しました。さらに、「本の魅力を知る会」を企画し、読み聞かせのワークショップを行いました。

三、おわりに

今回評価していただいた取り組みを継続しながら、子どもたちの健全育成や親自身の研修、そして子どもたちとの共有体験を充実させ、受賞に恥じないようさらなる発展に努めたいと考えています。

子どもたちと共に歩むPTA向上計画

新庄市立萩野中学校PTA会長 渡部正七

このたび日本PTA創立六十周年記念式典において、日本PTA全国協議会会長表彰を受賞いたしました。このような素晴らしい表彰を受賞出来ました事は、これまで本校PTAを支えていただいた地域の皆様、そして先輩会員の取り組みの賜と深く感謝申し上げます。

私達の山形市立山寺小中学校は、俳聖芭蕉の名句「閑かさや岩にしみいる蟬の声」で全国に知られる観光地、山寺立石寺の門前町にあります。小学校は創立百三十四周年、中学校は創立六十一周年、小中併設校として二十一周年の歴史があります。今年度の児童生徒数は九十五名と小規模校です。これまでの取り組みの中で、特に特色ある活動の一端をご紹介します。

一、組織改革で活動の活性化を

本PTAは、平成七年度に山寺小中PTAとして創立して以来、小中合わせて九カ年という長いスパンで、家庭・学校・地域の連携を図り子ども

んできました。

しかしながら、長いスパンならではの悩みもありました。役員会である常任委員会の構成メンバーに小学生の会員が少なく中学校主体となっており、小学校会員のPTA活動に対する関心の低い状況が課題となっていました。そこで、全ての学年委員長を常任委員会をメンバーとし、各学年の連携を深め、学年PTA活動

日本PTA全国協議会長表彰

地域とともに一人一人が主人公のPTA

山形市立山寺小中学校PTA会長 武田 栄 作

監事は役員会で選考し、総会の承認を得ます母親委員は会長が委嘱します。その結果、会員の六五％がPTAの役員となり、一人一人が主人公の活力のあるPTA活動が出来てきました。特に、低学年の保護者（父親）の参加協力が増加し、大きな成果として受け止めております。

二、地域と連携

毎月一日、十五日は「いの

「ひやりーはっと！のマップ」における危険箇所の改善に協力いただきました。今年度のPTA研修は、山寺のシンボルである立石寺の根本中堂にて、世界的なチエロリスト、吉川よしひろ氏のコンサートを開催しました。開催にあたり、立石寺、観光協会の協力を得て、感動のコンサートとなりました。

伝統文化保存会の指導をい

ちの日」として、交通量の多い地点で登校指導を行っています。その取組での話題から、平成十八年度より、PTA主催による山寺の子どもの安全を守る懇談会を開催していま

三、その他の取組

子ども一〇番、見守り隊、地区振興会、防犯防災連結協議会、交通安全協会、駐在所等の方々と交え、話し合いを行い、学区内の安全の確保に努めています。後述の

た、警司太鼓を創作。中学生全員が演奏し、学校だけでなく地域の方々にも披露しております。

学校目標「郷土山寺を愛し、社会に役立つ人間の育成」を受けて、体験学習の支援を行っています。観光でにぎわう十月に、中学生全員で行っている「観光ボランティア」の資料作成の協力や、小

平成二十年十一月二十日、日本PTA六十周年記念式典が、東京・紀尾井町のホテルニューオータニにおいて、皇太子同妃両殿下をお迎えして開催されました。席上、「日本PTA全国協議会長賞」を受賞いたしました。またその中で、皇太子殿下からは「みなさんが今後も手を携えて、家庭・学校・地域の架け橋として、一層力を尽くしていられることを期待する。」とお言葉を頂戴いたしました。

受賞にあたり、推薦していただいた関係各位に謝意を表しますとともに、本校のPTA活動を紹介し、受賞のお礼とさせていただきます。

一、はじめに

本校は、平成十年に旧萩野小学校と旧滝野小学校が統合し、白鷹町立鷹山小学校として創立しました。平成十九年には旧中山小学校も統合し、文字通り旧白鷹村、現在の鷹山地区唯一の小学校となりました。

児童数は五十名で、複式学級が二学級ある小規模校で、北東に白鷹山、西に朝日連邦を望むカリヨン響く丘の上の学校です。地区の世帯数は四百戸弱で、学校後援会として

全戸が加入し、物心両面から活動を支えてくれています。

本PTAは統合などに伴い規約や組織の改編を重ねながら、現在は役員会、学年部会、専門部会（広報部、保体環境整備部）、母親委員会を組織し、子どもたちの健全育成に向け、教育環境の整備や会員相互の交流、研修に努めています。総会や学年行事、研修会等への出席率はほぼ一〇〇％と高く、両親での出席も多いなど

日本PTA全国協議会長表彰

家庭・学校・地域の架け橋となるPTA活動を目指して

白鷹町立鷹山小学校PTA会長 齋藤 重雄

大変熱心で協力的です。

また、創立記念行事や学校と地区の合同運動会の中心となっており、放課後子ども教室への参加も多いため、家庭が協力しているなど、地区や町の活動と深く連携しながら子どもたちの健全育成にあたっています。

二、特色ある取り組み

(1) 統合にかかわる交流活動

統合においては、統合が順調に行われるよう、統合前から学校でも地区でもそしてPTAでも親睦を深める活動を行ってきました。具体的には、両校PTAの合同三役会・役員会・懇親会を開催し、相互の理解を深めるとともに新体制や規約の改正を行いました。特にPTAに助成金も拠出していただいている学校後援会へも地域の方々のご協力により、加入していただくことが

同じ目線での対話を重要視したものです。

(3) 地域の方と合同の親子環境整備

本校では、学校と地区合同運動会の前に、PTA保体環境整備部が中心になって、校舎やグラウンドの環境整備を企画し、親子はじめ地区の多くの方々も参加して早朝整備作業が行われます。今年は二百人を超える方々が参加しました。

できました。

(2) 豊かな交流活動

① 学年部での親子行事

親子行事への出席率は一〇〇％で両親そろっての参加も多いです。

② 親子研修会

PTAの大切な活動である研修会を、ここ二年は親子一緒の研修会としています。統合問もないことと、保護者へのアンケートにより子どもと

(4) 親子スキー教室

毎年二回、地域の方々にも講師を依頼して、白鷹スキー場でナイター親子スキー教室を開催しています。

(3) 交通安全街頭指導

年三回、各学期毎、一週間程度、交代制で会員全員による登校時の街頭指導を行っています。また会員の家族や地区の方々からも参加を得て、「安全安心な鷹山地区をつく

学生の地域を知る学習、「天台の道」ウォークラリーの安全確保。

学年PTAでは、親子クリン活動、子ども一〇番連絡所感謝訪問などの活動を行いました。

母親委員会では、生活リズムのアンケートを実施し、改善点や課題を分析。学校保険委員会、各家庭へ報告、PTA研修会開催し成果を上げております。

教育環境委員会は、それぞれの家庭で通学路を点検し「ひやりーはっと！のマップ」を作成したものをまとめ、学区全体を作成し、家庭に配布。学校の指導に合わせ、家庭での指導も呼びかけています。

四、おわりに

本校は、歴史、文化のあふれる地域により育まれています。その地域と学校、家庭を結び、連携を密にして、子どもたちの笑顔と未来のためにPTA活動の充実を図ってまいります。

り隊（見守り隊）へ協力してもらい、下校時の安全を見守ってもらっています。

(4) 母親委員会主催の「茶和会」

年に一度、母親会員の親睦を深めようと夜の学校のホールを会場に、学校で使う雑巾を縫ったり、お茶を飲みながら情報交換などを行っています。

(5) 放課後子ども教室への協力

本校では集団下校を行っていることから、PTAが協力し、全児童が加入する放課後子ども教室が実施されています。

三、むすびに

このたびの受賞は、鷹山小学校創立十周年に花を添えていただいたものと大変うれしく思うとともに、先輩方々への感謝でいっぱいです。

統合小学校ということで、まだまだ歴史は浅いですが、旧小学校から本校に寄せる地域の方々の思いは極めて大きなものがあります。

この受賞をきっかけに、家庭・学校・地域を見つめなおし、会員と一歩一歩、PTA活動を進めていきたいと思

栄えある表彰 おめでとうございます

今年度、県PTAや郡・市PTA、単位PTAにご尽力なされ、多大のご功績をあげられた団体・個人の方々に感謝状や表彰状がおくられましたのでご紹介いたします。

優良PTA文部科学大臣表彰

- ◇団体
山形市立本沢小学校父母と教師の会
新庄市立萩野中学校PTA
- ◇個人
赤塚弘實（県P連18代会長）
板垣喜代志（県P連19代会長）

日本PTA全国協議会会長表彰

- ◇団体
山形市立山寺小・中学校PTA
白鷹町立鷹山小学校PTA
- ◇個人
大風亨（前県P連副会長（山形市P連））
平雅昭（前県P連副会長（東置賜P連））
土田修（前県P連副会長（鶴岡市P連））
高橋和典（山形県PTA連合会監事）

- ◇感謝状（個人）
青木哲志（山形市PTA連副会長）
佐藤洋子（山形市（県）PTA連事務局員）
深瀬匡巳（北村山PTA連合会）
山村明德（最上地区PTA協議会）
濱田淳（米沢市PTA連合会）
石塚治己（鶴岡市PTA連合会）
阿部喜美男（鶴岡市PTA連合会）
北川久（東田川郡PTA連合会）

東北PTA連絡協議会表彰

- ◇表彰状（個人）
稲毛敏（前山形県PTA連合会前理事）
佐東幸治（前山形県PTA連合会前理事）
土田彦雄（前山形県PTA連合会前理事）
板垣正幸（前山形県PTA連合会前理事）
二階堂富太郎（前山形県PTA連合会前理事）
間宮尚江（前山形県PTA連合会前理事）
高橋健一（前山形県PTA連合会前理事）
本間知広（前山形県PTA連合会前理事）

◇表彰状（団体）

- 鶴岡市立朝陽第四小学校陽光会
酒田市立北平田小学校PTA
天童市立天童北部小学校PTA
米沢市立第四中学校教育振興会

優良PTA県教育委員会表彰

- 山形市立本沢小学校父母と教師の会
山形市立山寺小・中学校PTA
大石田町立大石田小学校PTA
天童市立天童北部小学校PTA
新庄市立萩野中学校PTA
白鷹町立鷹山小学校PTA
南陽市立赤湯小学校父母と教職員の会
鶴岡市立朝陽第四小学校陽光会
酒田市立北平田小学校PTA

山形県PTA連合会会長表彰

☆感謝状（県P役員退任者）

- 大風亨（前県P連副会長：山形）
平雅昭（前県P連副会長：東置賜）
土田修（前県P連副会長：鶴岡）
稲毛敏（前県P連理事：上山）
佐東幸治（前県P連理事：天童東村山）
土田彦雄（前県P連理事：西村山）
板垣正幸（前県P連理事：北村山）
二階堂富太郎（前県P連理事：米沢）
間宮尚江（前県P連理事：西置賜）
高橋健一（前県P連理事：酒田）
本間知広（前県P連理事：飽海）
佐竹恵一（前県P連理事：小・T）
佐藤嘉一（前県P連理事：中・T）
志田祐啓（前県P連監事：上山）
大沼篤（前県P連監事：山形）
佐藤洋子（前県P連事務局員）

☆表彰状（郡・市Pより推薦）

- 青木哲志（山形市P連）
千葉榮一（山形市P連）
菅原貢（山形市P連）
三浦保志（山形市P連）
田苗守広（天童東村山地区P連）
三宅和広（天童東村山地区P連）
佐藤澄弘（最上地区P連）
押切明弘（最上地区P連）

（敬称省略）

- 笹原貴宏（最上地区P連）
濱田淳（米沢市P連）
石森圭（鶴岡市P連）
佐藤和広（鶴岡市P連）
土田浩和（鶴岡市P連）

2008たのしい子育て全国キャンペーン 「やっぱり家族っていいナ」 三行詩と写真コンクール

〈一般の部〉

☆佳作（三行詩の部）

- 高橋千枝（山形市・宮浦小P）
齋藤元子（山形市・滝山小P）
小林立子（山形市・千歳小P）

☆読売新聞社賞（写真の部）

- 高橋浩幸（新庄市）

第30回全国小・中学校PTA 広報紙コンクール

☆日本教育新聞社社長賞

- 鶴岡市立鶴岡第五中学校PTA

☆レイアウト賞

- 酒田市立松原小学校PTA

☆日本PTA奨励賞・山形県PTA会長賞

- 山形市立金井小学校PTA
新庄市立本合海小学校PTA
高島町立亀岡小学校PTA
三川町立押切小学校PTA
三川町立東郷小学校PTA
山形市立第九中学校PTA
米沢市立第四中学校教育振興会
最上町立最上中学校PTA

☆山形県PTA会長賞

- 山形市立第八小学校PTA
山形市立千歳小学校PTA
山形市立南沼原小学校PTA
山形市立蔵王第一小学校PTA
山辺町立山辺小学校PTA
村山市立富並小学校PTA
鮭川村立大豊小学校PTA
米沢市立松川小学校PTA
鶴岡市立朝陽第六小学校PTA
鶴岡市立東栄小学校PTA
酒田市立新堀小学校PTA
酒田市立港南小学校PTA
遊佐町立吹浦小学校PTA
上山市立南中学校PTA
米沢市立第一中学校PTA
鶴岡市立鶴岡第四中学校PTA
酒田市立第三中学校PTA

日本PTA研究大会 かがわ大会に参加して

「UDONの国さぬきこしとねばりのある子に育てよう」を大会スローガンに二〇〇八年八月二十三日～二十四日香川全国大会が開催されました。この二日間は、沢山の方との貴重な出会い、素晴らしい体験の場となりました。

私が参加した分科会は地域連携「学校・家庭・地域の和！子どもたちと共に育ち合い」というテーマでした。講演では、平成十八年度に文部科学省からコミュニケーション・スクールの研究校の指定を受け実践をしている学校の発表でした。近年、地域の教育力が低下したと言われ、家庭の教育力も多様化してきたと言われています。また、保護者や地域の様々な意見を反映し、地域に開かれた学校づくりが

望まれています。コミュニケーションでは、学校運営協議会が設けられ、保護者・学校・地域・有識者などが参画し、学校と地域が力を合わせる事によって、学校と地域がお互いに信頼し、地域の学校を盛り上げていくという事です。事例では、地域の高齢者に技を教わる授業や、学校施設を地域の方と共有し、学校の空き時間を地域に開放する。「子縁」という制度を作り親や子どものない人・高齢者などが学校で生涯学習を楽しむなどの活動をされているという事です。このような活動により「あの人はどこの人、この子はどこの子」と地域皆がコミュニケーションもとれ犯罪も減ったという事です。この分科会に参加し本当に感動し、少子化である今こそ地域の宝である子どもたちを、地域皆で育てなければならぬ事を実感しました。全体会では、内館牧子氏による「角界の新弟子における規範意識」と題した記念講演で我々親の規範意識を再確認する基調講演となりました。

この大会は、私にとって大切な財産となりました。この大会に参加させていただいた皆様に心より感謝申し上げます。

南部富士・中津川・城下町盛岡を訪れて

～東北P研究大会盛岡大会に参加して～

第四十回東北P研究大会が九月六日・七日理想郷イーハトーブの地、盛岡で開催されました。今年度の大会は小春日和に恵まれ、南部富士と名高い岩手山の雄大さとそのすそ野に広がる自然を目のあたりにし、そこから流れる中津川、鮭が遡上するやさしい流れが私たちの心を和ませてくれる環境の中で、思い出に残る大会となりました。

大会一日目は、午後から分科会があり私が参加した第五分科会は「家庭と中学校教育」のテーマで中学生の現状を再度認識し、PTAとして学校や地域とどのように連携を図るかを主題として進められました。基調講演の八重樫勝先生の話は、教員としての経験を踏まえ、教え子とのエピソードを時より交えながら「育てたように子は育つ」と題し子どもを育むための親の在り方、教師の在り方を熱く語って頂き改めて子育ての基本は家庭であると実感いたしました。私たち親が日々の忙しさや抱える悩みの多さから心に余裕を持たない昨今、親としての見栄や欲が先行する子育てになっているのではないかと、自問自答の場面が多々あり親としてのあり方を考えさせられる分科会でした。

そして、研修会一日目が終わり恒例となった山形県からの研究大会参加者懇親会が、そば処「東屋」本店で行われ約七十名のPTA同志の親睦を深めました。その後、宿泊先までの道程のなかでも地元の人々のやさしさに触れ、そして地元の名物に舌鼓をうち城下町盛岡を堪能し、楽しい思い出となりました。

二日目の全体会では、特に県立雫石高等学校郷土芸能委員会のアトラクションが強く印象に残りました。イーハトーブの地で脈々と受け継がれていく文化を見事に表現しており、また大会要項の表紙絵や扉絵にも高校生の作品が使われている事は子どもと共に歩むPTAの実践が感じられました。

最後に、PTA活動は「悩み学ぶ事が基」であり、この研修会で多くの人知り合い、語りあった事を糧とし今後のPTA活動に生かしていけたらと思います。



西置賜地区PTA連絡協議会会長

菅 滋 徳



東田川郡PTA連合会

齋 藤 学

安全互助会 から

山形県PTA連合会安全互助会

〒990-0041

山形市緑町一丁目9-30

TEL 023-631-0055

FAX 023-635-4359

提携保険会社 共栄火災海上保険（株）

〒990-0039

山形市香澄町二丁目11-43

TEL 023-622-2827

FAX 023-624-0219

安全互助会は、平成19年度より共栄火災海上保険（株）と契約し運営されています。本会の趣旨をご理解いただき県内9割の学校にご加入いただいておりますことに感謝申し上げます。また、各学校で請求事務をされます担当の先生には重ねて御礼申し上げます。

児童・生徒の安全やPTA活動を側面からサポートします。今後ともよろしくお願い申し上げます。

これもダメなの？

・・・共栄火災から返却されている事例・・・

担当の先生にはお手数をおかけしますが、保護者の方にお話していただき、提出前にご確認下さるようお願いいたします。

※修正液の使用※

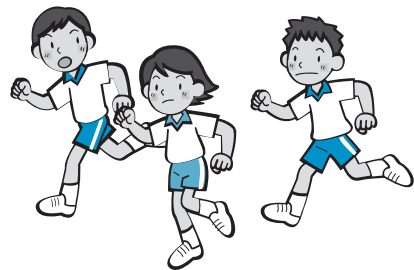
少しでも修正液が使用されたものは受付されません。修正液の上に訂正印を押捺しても返却されています。書き直して頂くこととなります。

※複数の印鑑の使用※

請求書類に押捺するときは、訂正印も含め全て同じ印鑑をお使い下さい。

※筆跡が異なる※

請求書類は全て請求者（保護者）本人がご記入下さい。未記入の部分を担当の先生が補足してくださったり、傷病名を主治医の先生に記入してもらっても返却されています。二本線で消し訂正印を押捺下さい。

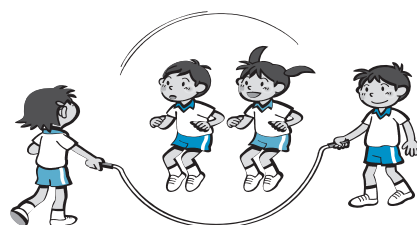
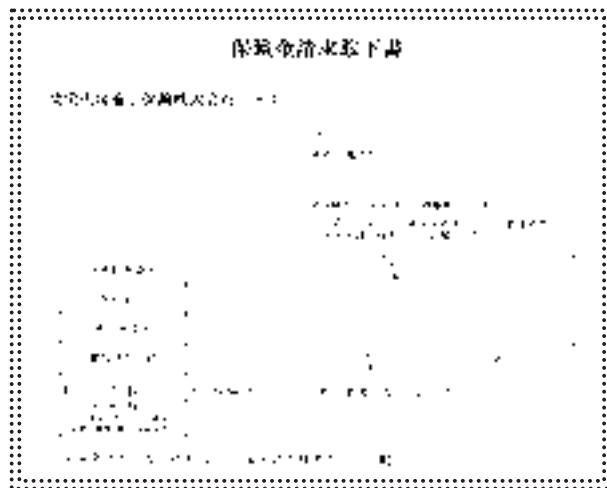


平成21年度からの変更のお知らせ

- ①『保険金請求取下書』の提出について
傷害事故報告書を提出しても保険金を請求しない場合に提出が必要になります。
（7日未満等で該当しない場合は不要）
- ②『同意書』は提出不要
但し、共栄火災査定の段階で必要と判断された場合と、医療機関の「診断書」を提出した場合は同意書が必要になります。

(?_?) (?_?) (?_?) こんな場合は？ (?_?) (?_?) (?_?)

- Q. スポ少の傷害保険にも入っているけど、互助会も請求できる？
- A. 対象となります。他の保険にいくつ入っていても可能です。
- Q. 「申告書」の生年月日は誰のを書く？
- A. 受傷者の生年月日・職業です。



日中友好少年少女の翼に参加して

これから

山形市立山寺中学校

三年

武田

健太

「広い。」

中国に着き、思わず口から言葉が漏れた。初めて、中国に降り立ち、まず目に入ったのは空港の広さだった。建物の中にあるはずなのに外にいないのではないかと思えるほど広がった。緊張しながらバスに乗り込み、興味津々で外を眺めていると車が多かった。ビルは大きく、道はずっと真つすぐ、交差点はほとんどなく「広い。」とまた思った。とその時、僕は驚いた。僕が乗っているバスの隣の道路を自転車に乗っている人が走っていたのだ。驚いた僕は、中国の案内の方に聞いてみると、「あれは、自転車専用の道路だよ。中国は、自転車に乗っている人が多いからね。」と教えてくれた。自転車道路が普通のようにとけこんでいることにまた改めて驚いた。

からず、英語もあまり上手ではない、どうやってコミュニケーションをとろうかと考え緊張していた。バスが中学校に着いた。

初めに「ハロー」の挨拶で始まった。中国の学生が学校を案内してくれた。指をさして何かを言っているのだけど英語が速すぎて、緊張しすぎてあまり理解できなかった。でも何とか手などを思い意思を伝える事が出来たと思う。あつというまに時間は過ぎ訪問は終わった。とてもよかった。自分が伝えなかったことを伝えることができた。もっと勇気があれば伝えられただけかもしれない。

この、日中友好を体験して思ったことがある。文化、言語、場所がちがっても意思を伝えることが出来るということだ。この経験を活かして、いろいろな場面でどんな人にも伝えられるようにしたいと思う。これからは、何事にも勇気を持ってチャレンジする事が大事だと思う。

一生の宝物

山形市立高橋中学校

三年

中野

まや

私はこの旅に参加して本当に良かったと思います。

四班のみんなといっしょにすごした六日間本当に楽しかったです。一生の宝物です。みんなとの別れはすこつらかつたけど、また東大で会おう。笑。楽しみにしてるから。笑。

♡四班のみんなへ♡

おっす。変顔がすこつ上手でうらやましいです！笑

班長。班長のキャラが良かったよ。笑。ぜったい四班の同窓会開いてね。

莉那。いろいろお世話になりました。東北同盟で今度遊ぶべね

さくら。寝ぐせすこかつた！笑

だち。こみこみ上手！笑

みゆう。写真オタ！いっぱい送ってね！

まり。いつも寝ててすこかつた！笑

おおい。もつと話

第23回日中友好「少年少女の翼」日程

10月10日	山形市立山寺中学校	10月11日	山形市立山寺中学校
10月12日	山形市立山寺中学校	10月13日	山形市立山寺中学校
10月14日	山形市立山寺中学校	10月15日	山形市立山寺中学校
10月16日	山形市立山寺中学校	10月17日	山形市立山寺中学校
10月18日	山形市立山寺中学校	10月19日	山形市立山寺中学校
10月20日	山形市立山寺中学校	10月21日	山形市立山寺中学校
10月22日	山形市立山寺中学校	10月23日	山形市立山寺中学校
10月24日	山形市立山寺中学校	10月25日	山形市立山寺中学校
10月26日	山形市立山寺中学校	10月27日	山形市立山寺中学校
10月28日	山形市立山寺中学校	10月29日	山形市立山寺中学校
10月30日	山形市立山寺中学校	10月31日	山形市立山寺中学校

したかった。笑。原さん。通訳ありがとう！いとめ。いとめの方言好きだった！

岡。意外なことばかりでびっくりだった！

近藤。おとなしくて意外だった。笑。

なみ。福岡弁最高！なみのテション最高！

みほ。同部屋楽しかった。手紙送ってね！

水野。ちもつと笑って下さい。笑。

四班のみんな、私のことを知ってる人、メール送ってね。本当に楽しかった、ありがとう！

「ふるさと・愛・平和」 今かかわりの中でいのち輝く



山形県PTA連合会副会長
最上大会準備委員長
深田 裕一

山形県PTA連合会の結成六十周年を無事に終え、来年また新たな一歩を踏み出すにあたり、最上地区PTA協議会が研修大会を主管させていただきました。大会主題は四年目となる「家庭・学校・地域とのかかわりの中で育もういのち輝く子どもたちを」であります。各分科会ごとに県内各地のPTA会員の積極的な参加と発言により、内容の充実した大会になることを願っております。

一方で、世の中がどのように大きく変わろうと「ふるさと・愛・平和」といった不変なもの尊さと、我々大人が伝えていくことも責務であると思うのです。そこで、全体会の記念講演では林隆三氏を招き、それらのいっばい詰まった宮澤賢治の童話の世界にまずPTA会員が触れ、また人間の生の力を再確認しながら、ややもすると大人も忘れがちであった大切なことにあらためて気づかされるきっかけになればと考えます。

そして現在の少子化・都市部との格差・雇用不安や景気低迷の中で、PTAとして子どもたちに不安を抱かせないように家庭・学校・地域とのかかわりの中で育むということが、今ほど大事な時代はないのではないかと思います。かわりこそがいのちを輝かせ、次代に引き継ぐ大切なことだと思っております。

最後に、小・中学校の教育はもちろん行政機関とも結びついているわけですが、最上地区PTA協議会としては一市四町三村がひとつとなつて来年度の第六十一回山形県PTA研修大会（最上大会）の準備を進めておりますので、県内各地より多数の会員の皆様のご参加をいただきますようお願い申し上げます。

平成20年度山形県PTA連合会役員名及び事務局員名

役 職	氏 名	所属地区PTA	所属PTA	役 職	氏 名	所属地区PTA	所属PTA
会 長	遠藤 正明	山形市PTA連合会	山寺小中	理 事	小田原浩規	酒田市PTA連合会	酒田三中
副会長	川口 豊	山形市PTA連合会	蔵王第二小	"	奥山 仁志	飽海郡遊佐町PTA連合会	稲 川 小
"	須田 貞夫	鶴岡市PTA連合会	栄 小	"	平尾 幸治	県小学校教職員代表	滝 山 小
"	深田 裕一	最上地区PTA協議会	新 庄 小	"	齋藤 賢二	県中学校教職員代表	米沢二中
"	菅 滋徳	西置賜地区PTA連絡協議会	豊 田 小	"	無着 道子	山形市PTA連合会	本 沢 小
理 事	志田 祐啓	上市市PTA連合協議会	上山南小	"	我妻真奈美	米沢市PTA連合会	三沢西部小
"	目黒 淳一	天童・東村山地区PTA連合会	天 三 中	監 事	高橋 和典	山形市PTA連合会	山大附属小
"	片桐 久	西村山PTA連合会	陵 東 中	"	高橋 唯悦	天童・東村山地区PTA連合会	天 三 中
"	元木 明彦	北村山PTA連合会	楯 岡 中	"	山本 正博	山形市PTA連合会	蔵王一小
"	長岡 正一	米沢市PTA連合会	米沢五中	事務局長	鈴木 幹雄	山形市PTA連合会	事 務 局
"	柿崎 教之	東置賜地区PTA連合会	赤 湯 小	事務局員	佐藤 静子	"	"
"	齋藤 学	東田川郡PTA連合会	余 目 中	"	熊谷 慶子	"	"

おしらせ

日P全国研究大会が 宮城県で開催されます。

平成二十一年度の日本PTA全国協議会の研究大会は八月二十一日・二十二日に隣接宮城県で開催されます。分科会会場は宮城県内各地に分散されますが、日Pの全国研究大会が近くで開催されることはめったにありません。全国から同胞が参集するこの大会には是非多くの方々に参加していただきたいものです。年度明け早速に参加者を募りますのでご協力下さい。

あとがき

県P連が昭和二十四年二月二十八日に結成されて今年度で六十周年を迎え、平成二十一年一月に記念誌が刊行されました。「継承と創造のあゆみ」をコンセプトに編集されたものです。混沌とした世の中、PTA活動のために何を残し何を引き継いでいかなければならないのか、示唆できる記念誌になればと願っています。